



第21回例会

平成19年11月28日(水)
サンパレス福島

本日のプログラム

- 1.開会点鐘
- 2.ロータリーソング「奉仕の理想」
- 3.4つのテスト
- 4.来訪者紹介と会長挨拶
- 5.幹事報告
- 6.斎藤実RC財団委員長スピーチ
- 7.横山りつ子米山奨学会委員長スピーチ
- 8.各委員会報告
- 9.閉会点鐘

今月・来月のプログラム

- 12月12日(水) 創業記念職業奉仕発表
- 12月12日(水) 福島成蹊高等学校IAC例会(16:00~)
- 12月19日(水) 家族例会(18:00~サンパレス)
- 12月26日(水) 休会
- 1月 4日(金) 福島市内7クラブ合同新年会例会(12:30~辰己屋)
- 1月 4日(金) 福島南RC新年会(15:00~「おりおり」)

会長挨拶

武藤 正隆会長



上行くと 下れる雲や 秋の空
[凡兆]

秋の空雲をこれほど解り易く見事に詠い上げた句は少ないとある解説者はほめています。秋の澄み切った空の気流は、なかなかはげしくて、来る雲と行く雲をしきりに流してゆく。上層と下層に動く気流の動きを、平易、簡潔に即物的にとらえた詠み上げ方は、芭蕉の門下生の中でも他に類をみないと褒められている俳句です。

現在、会員数が68名と2名減っています。行く会員が一人も無く、来る会員が一人でも増えることを切に望んでいる今日この頃の心境です。



4つのテスト
小宅 厚職業奉仕委員



宗形 守敏様 金子興志様

さて、次年度ガバナーノミニの指名委員会が来る12月2日に開かれることになっています。当クラブは会の総意のもとに、既に指名委員会に博多義雄会員の推薦状を提出し、届出手続きを終了しておりますことをご報告します。真実、且つ公平で皆のためになる選考を、私は切に願っています。

本日のお客様

福島西RC パスト会長 金子興志様
福島21RCパスト会長 宗形 守敏様

パセオ通りの並木50本に10万個のイルミネーションを

菅原 節子会員

12月14日 18時30分 屋台村前で点燈式が行なわれ、10万個のイルミネーションを2月14日まで点燈いたします。募金活動をしていますので、ぜひご協力を宜しくお願い致します。

ロータリー財団 斎藤 実委員長スピーチ

皆さんこんにちは。私は口下手で、菅原節子さんと同じ県の出身とは、皆さんとても思われないでしょうね。食べ物に興味がある私は、福島に来て、美味しい柚子があることや、郷土料理の烏賊人蔘に驚かされたりで、楽しんでいます。さて、財団の話は数字が多



く出てきますのでパネルを用意致しました。

ロータリー財団情報(1916~17から90年)

1ドルを116円と換算して
全世界寄付累計 2,224億円
日本の寄付累計 429億円
(19.6%)

2006~2007年度

日本の寄付額 15億3,468万円
2530地区 3,484万円
福島南RC 19,862円/人 145万円

1人当たり100ドルを達成しています。今年度中には、3,000万円達成見込みです。

個人が100ドル以上寄付すると「財団の友」また、1,000ドル以上ですと「ポール・ハリス・フェロー」等、金額によって認証されます。クラブにおいても「100パーセント・ポール・ハリス・フェロークラブ」等認証制度があります。

寄付を集める一方、使い方には、財団プログラム補助金を世界中に分配する仕組み「シェア・システム」があります。50%が、国際財団活動資金(WF)として、残り50%が、地区財団活動資金(DDF)として使われます。また独特な資金周期というものがあります。これは、3年間寄付金が投資され、3年後にプログラムに使用することです。

当クラブでは、城山公園のベンチや植栽に使用しました。恒久的に行われている奨学金のほかに、海外クラブとの連携や、奉仕目的の旅行などにも使用されます。寄付をいただいている皆様に感謝を申し上げます。

米山記念奨学会 横山りつ子委員長スピーチ



先日 上海に行ってまいりまして、2年前の米山奨学生、王鴛鴦さんと会う事が出来ました(米山学友の消息を尋ねる運動)で連絡先が判り、メールのやりとりをしていたお陰だと思えます。今は、成都から半年間の出張で1月まで、上海勤務との事でした。観光にもお付き合いして頂き、最後の夜に彼女が流した涙を忘れられません。帰国してからのメールには、こう書いてありました。「皆さんと久しぶりに食事をして会話を交わして、とても懐かしく思っていました。ですから、いよいよ別れる時、

つい涙が出ました。ちょっと恥ずかしかったですね。福島南ロータリークラブの方々是我的恩人と言っても過言ではありません。一生のお付き合いをさせていただきます。」

彼女は、いままでの米山奨学生を代表して責任を感じているようでした。でも、福島の留学生活は、きっと有意義であったと思います。この先当クラブでも奨学生を受け入れる時がきっと来るはずですが、温かい視線をもって、いい方向にそだていただければと感じました。これまでの当クラブ37年の歴史の中で、米山への寄付金累計は1,900万円、創立40周年にむけて2,000万円の寄付金を目標とし、王鴛鴦さんの様な奨学生を支援する為に、これからも皆さんのご支援を仰ぎたいと存じます。



王鴛鴦さん受け入れ時、会長だった 野地パスト会長の話。
私も王鴛鴦さんに会って大変感動して帰って来た1人です。